当社製作所におけるエンドユーザー主導の経営情報管理システム

大谷　淳*
磯部雅裕*
大川真一郎*

要　旨

三菱電機㈱情報システム製作所（以下“シ電”という。）はハードウェア製造やシステム構築等コンピュータ事業において製造面を担当しており，その管理メッシュは販路別・客先別・業種別・機種別など多岐にわたっている。一方，事業環境の変化に対応するため，シ電の組織も度重なる変更を余儀なくされている中で，従来の汎用機を核とした基幹系システムでは経営管理層からの多様な情報提供要求に対しタイムリーにこたえることができなくなってきていた。

このような要求にこたえるためには，ユーザーが自由に検索条件を設定し管理資料を作成できる環境を整える必要があるが，シ電では，大容量データを高速に検索・集計可能な“DIAPRISM”を活用したデータウェアハウス（以下“DWH”という。）環境を構築し，1998年１月から利用を開始した。

本稿では，現在DIAPRISMを利用しているシステムの中から，汎用性が高いと考えられる次の２種類を紹介する。

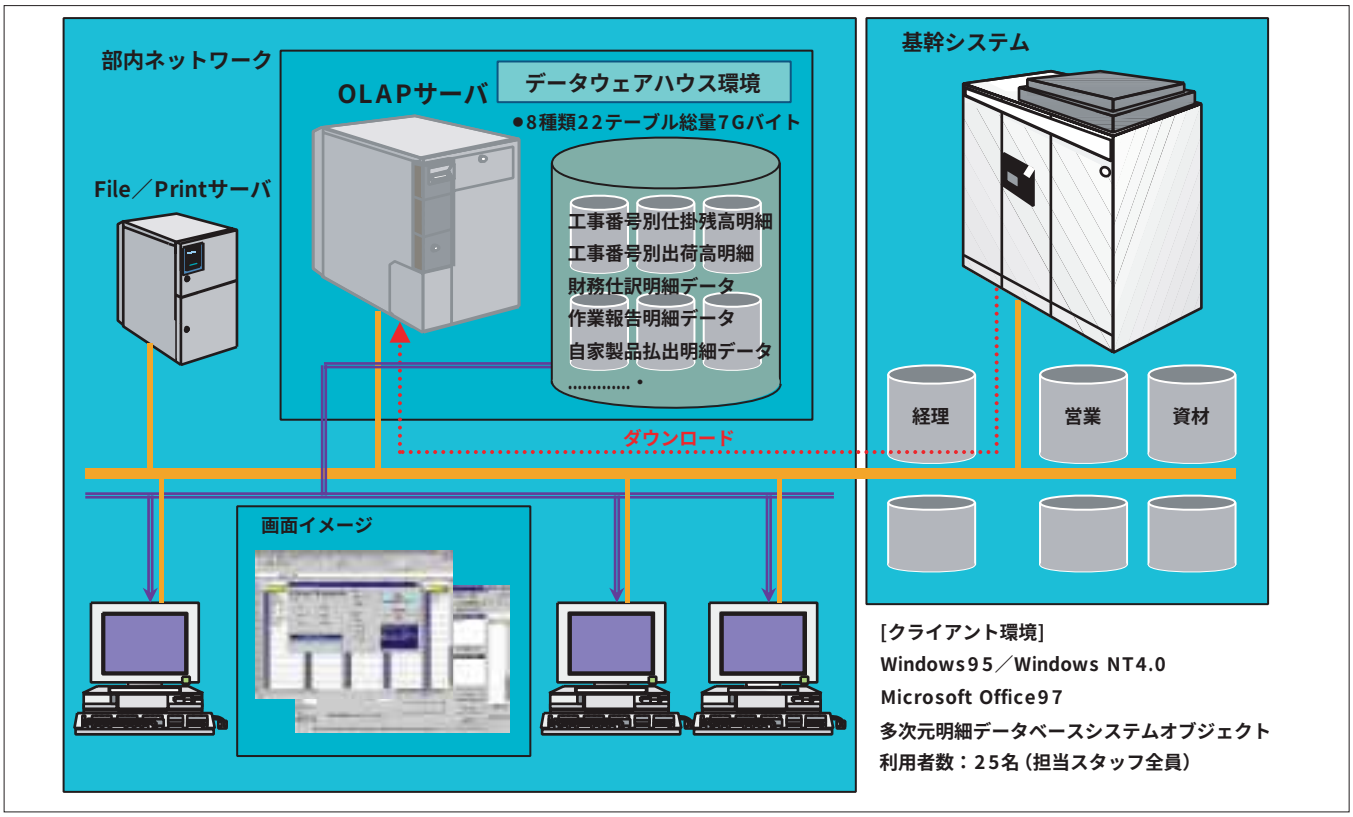
⑴　明細データ検索システム

工事番号ごとの出荷高・仕掛品残高・作業報告・ソフトウェア外注費等の明細データを，ユーザーが自由に検索条件を設定し，条件に合致したデータを抽出する。検索結果は自動的にExcelに張り付けられるので，ピポットテーブル等の機能を利用したデータ分析も容易である。

⑵　大規模プロジェクト実績管理システム

プロジェクト名と工事番号の対応テーブルをユーザーが事前に作成しておくことにより，大規模プロジェクトの原価要素別実績を集計する。要素別データから一件ごとの明細を調べることもでき，また工事番号の追加／削除にも柔軟に対応できる。

いずれのシステムも，業務での必要性を感じていたユーザー自身が実業務をこなす傍ら設計・開発したものである。



シ電経営情報管理システムの概念図

基幹システムからリストベースのデータをダウンロードし，DIAPRISMに格納する（現状は月次バッチ）。ユーザーは各自の端末から，Excel VBA（Visual Basic for Application）で開発した検索システムを利用し，用途に応じてデータの抽出／集計を行う。